

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター倉敷学園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年2月10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの特性に合った支援を行うこと。	お子さんの特性、発達状況を把握した後、所属先に訪問する。声のかけ方や関わり方、環境設定等を支援に取り入れて、所属先の先生方と共有している。	継続していき、お子さんの集団適応力を高めていく。
2	支援内容、お子さんの様子、今後の支援の見立て等、訪問支援に関する内容を対面や、電子連絡帳を活用し保護者や所属先と共有すること。	訪問記録については電子連絡帳を介し、タイムリーに保護者と共有を行っている。所属先の先生方へは訪問前後の時間や電話、担当者会議にて情報共有の時間をいただいている。	継続していき、ご家族の思い、所属先のニーズに沿いながら支援を行っていく。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問職員の確保。	訪問業務と公益活動業務の兼務が主である。	訪問日の調整と、他職員との役割分担を行う。
2	学齢期以降の支援のスキルアップの機会が少ない。	幼児期支援の経験を持つ職員が多い。	昨年度に引き続き、同様の課題を挙げており、今年度は学齢期支援に関する研修へ複数回参加した。今後も法人内外の研修へ積極的に参加し、専門性の向上と支援の幅の拡充に努めていく。 また、相談支援業務を体験できる機会を設け、実践を通して相談援助力の向上や関係機関との連携方法を身につけられるよう取り組んでいく。
3			